

## 札幌市立米里中学校 第39回卒業証書授与式「式辞」

雪解けが進み、春の気配を感じる、この佳き日に、米里中学校を巣立つ百三十四名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日は、本校の荒木PTA会長様、並びに、菊水小学校 前川校長先生、米里小学校 小松校長先生、幼稚園・保育園の園長先生、コミュニティー・スクール委員や地域を代表するご来賓の皆様、本校PTA役員の皆様、そしてご家族の皆様のご臨席を賜り、ここに第三十九回卒業証書授与式を行うことができますことを、心より厚くお礼申し上げます。

先ほど、卒業生の皆さんに卒業証書を渡しました。一人一人に手渡した卒業証書は、中学校三年間の課程を立派に成し遂げた、皆さんの努力の成果を示す証（あかし）です。また同時に、その卒業証書は、大勢の方々に見守られ・励まされ・支えられた結果として、手にすることができた証書でもあります。

今年度最高学年として、皆さんは本校の学校づくりを立派にリードしてきました。それは行事だけではなく、日常生活においても取り組んでくれました。

一組は、元気で仲のよい、主体的な活動のできるクラスでした。周囲を楽しませたいという気持ちが強く、学校祭では全員が踊っていましたね。合唱コンクールでは、堂々と貫禄のある素敵な歌声でした。

二組は、担任の熱量がすごく、その担任に引っ張られるように、自然と周りによい声かけをしていましたね。学校祭の「一番スクリーン」では、台本から自分たちで考え、笑いと涙を誘う物語で、3年生としての姿を後輩たちに見せてくれました。

三組は、大好きな担任のことを気遣うことができる集まりでした。体育科の全国大会の研究授業では、担任を支えるために行動していましたね。修学旅行のゆぼぼでの学級出し物は、素敵な思い出になったのではないのでしょうか。

四組は、みんな仲がよく、みんなで楽しもうとする姿が素敵でした。そして、パワーがありすぎるクラスでしたね。給食の完食への気合いもすごく、授業中はちょっとしたゲームでも本気で盛り上がる声が校長室まで聞こえていました。

七組は、今年から教室が大きくなり、クラスの人数も多くなりました。その中で、クラスの中心として下級生を導いてくれました。校外学習や学校祭での展示販売、合唱コンクールでのハンドベル演奏やレインボーフェスティバルでの販売実習など、3人の先生方に見守られながら、多くのことを体験していましたね。

きっと皆さんの胸の中でも様々な思い出が渦巻いていることでしょう。そうした懐かしい思い出に浸りながらも今日は、新しい生活への希望や決意を胸に刻む日にしてほしいと願い、みなさんに一つの言葉を贈ります。

### 「証(あかし)」

くじけそうなのは あなたが進んでいる証。

しかられたのは あなたが愛されている証。

辛いのは あなたがあきらめていない証。

「生きている」という証を、感じてほしい

これから、本当の意味で人生を作り上げていくあなたたちにとって、自分を支えてくれるのは、自分が命を輝かせて生きているという証に他なりません。その証を心の中に積み上げていくことが人生を生きていくことなのだと思います。

そのために必要なことは、自分に訪れる様々な出来事を常にポジティブに受け止める心持です。くじけそうになったとき、「ここまで、自分で確かに進んできたじゃないか」と証を頼りに、もう一歩を踏み出す。踏み出せた自分が誇りになる。叱られたとき「こんなに自分のことを思ってくれてるじゃないか」と感謝し、素直に受け入れる。自分の短所が消え、人を愛せる自分が愛おしくなる。辛いと感じたとき「あきらめていない自分があるからじゃないか」という証を胸に、負けてたまるかという勇気を奮い起こす。その勇気を出せた自分がたくましく思える。

そんな風に、ポジティブに証を感じることは、自分が生きている意味を感じることであり、自分が生きぬく柱を作ることにつながるのです。これからの人生を自分の力で歩いていく皆さんが、生きている証を積み上げ、雄々しく未来に向かって歩み続けることを祈っています。

また、生きているという証は日常の中にたくさん存在しているということも覚えておってください。大切なのは、それに気づき、自ら手を伸ばしていくことなのです。日々の中で、同じ一日は一つもなく、どの一日も大切な人生の一日なのです。その中に証を見つけていく目と感性を養ってください。

いつの日か、生きているという証を積み上げ、自信を持って人生を切り拓いているあなたたちに再び会うことを楽しみにしています。

最後に、卒業生のみなさんはもちろん、在校生の皆さんにも、こういう節目に感じてもらいたいことがあります。それは家族の愛情です。ここまで自分一人の力で成長できたのではありません。ほんのちょっとした成長を喜び、歩みを温かく見守ってくださる家族があってこそ、今のあなた方があるのです。また、安心して暮らすことができるよう、社会を支えてくださる多くの方が見ていることも忘れずにください。

明日からは、ここにいる百三十四名全員が九年間の義務教育を終え、それぞれ自らの道を歩んでいくことになります。私どももいつまでもお子さんの健やかな成長を願い、ずっと応援団であり続けたいと思っております。保護者の皆様、そして地域の皆様に、今後とも本校の教育に一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

卒業生の皆さん 本日は誠におめでとうございます。

令和八年三月十三日

札幌市立米里中学校長 矢野 智之

## 第39回卒業証書授与式 「来賓祝辞」

只今ご紹介に預かりました。米里中学校PTA会長の荒木と申します。PTAを代表致しましてお祝いの言葉を申し上げます。

卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

私事ですが、私の娘も本日この米里中学校を卒業いたします。今、長いようで短かったこの三年間を思い返して見ますと特に印象に残っているのは、真新しく少し大きな制服に身を包み、緊張と期待に胸を膨らませて同じこの体育館で行われた入学式、小学校時代とは違い濃密な活動を行う部活動に参加するか迷っている姿、本格的な競技場を使って行われる陸上競技大会、自分達ですべてを考えて行う学校祭、クラス対抗で行われる合唱コンクールなど様々な学校行事。そして、親元を離れ先生と友達と寝食を共にした宿泊学習と修学旅行。修学旅行では、帰りのJRが遅れ予定時間に帰ってこれず、我々保護者も心配になりました。そして、小学校時代とは比べ物にならないほど濃密に、また難しくなった、勉強。子供達は、それらの事を戸惑いながらも少しずつ、でも着実にこなし、3年生となった今は後輩たちを導き尊敬される存在となりました。その努力に私は素直に賞賛を送りたいと思います。私たち保護者にとって子供はかけがえのない存在だと思います。少なくとも私にはそういう存在です。

その子供が、小学校時代と違い親に甘えなくなり、色々な事柄に自分自身で答えを見つけ出そうと葛藤する姿をみて寂しさと頼もしさを感じていましたし、時には反抗期だったのか、話しかけても冷たく返されたり、返事もしてくれない時もありました。

今後、そういう事がまだまだあると思いますが、子供が大人になる為のステップだととらえていきたいと思えます。

今日で義務教育という九年が終わります。ですが、義務教育が終わるだけで、我々保護者の責務が終わるわけではありません。死ぬまで親は親で子供は子供です、これからも温かく見守っていただきたいと思えます。

さて卒業生の皆さん、皆さんは義務教育を終え四月から次の進路に進み、また新たな世界へと旅立ちます。今まで以上に悩んだり迷ったりすることが多くなると思えます。

今まで培ってきた経験を糧に乗り越えていてもらいたいともいます。

どうしても解決方法が見つからない時は新しくできた友達や先生に相談することも大切だと思いますが、我々保護者にも相談をしてください、頭ごなしに否定やおこることもあるかもしれませんが、保護者は常にあなたたちのことを一番よく考え、最適な助言をしてくれる事と思えます。

あなたたちの事を一番よく知っているのは我々保護者なのですから。

最後になりましたが、本日まで深い愛情で子供たち一人一人に対し親身に相談に乗り、時に厳しく、時に優しく指導して下さった矢野校長先生をはじめとする諸先生方に敬意を表しますとともに、心より深く感謝を申し上げます。

「本当にありがとうございました」

また、ご臨席賜りましたご来賓の皆様方にも先生方と同様に感謝を申し上げます。

今後とも、私たちの子供達にご支援とご指導を宜しくお願い致します。

それでは、卒業生の皆さんの輝ける未来とこの卒業式に参加して下さった皆様のご多幸を祈念致し、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。



令和八年三月十三日 米里中学校保護者と先生の会 会長 荒木 直也